

第56回人権を考える大津市民のつどい志賀ブロック「夏の集会」

2024年7月13日(土) 大津市和邇文化センター ホール

歴史から学ぶ平和と人権

日米親善の「青い目の人形」～大津市の学校資料から～

講師 大津市歴史博物館 学芸員 福庭万里子

1. はじめに 日米の人形交流 フレンドシップ・ドール (友情人形)

- 昭和2年(1927年)、当時の日米関係を憂慮したアメリカの宣教師シドニー・L・ギュリックを中心に、日米の子どもたちの人形交流が計画された。ひな祭りの時期に合わせて、約12,000体の「Friendship Doll (友情人形)」が贈られた。日本では「青い目の人形」と呼ばれて歓迎され、日本からはアメリカへ答礼人形58体が贈られた。
- しかし、その後、太平洋戦争が激化する中で、「青い目の人形」は敵国の人形とされ、その多くが失われた。
- 戦後、各地に残っていた人形の再発見があり、滋賀県内では4体(大津市、甲賀市、日野町、彦根市に各1体)が確認されている。
- 今回は、特に大津市内で、昭和2年当時のようすを示す学校沿革誌や写真などの学校資料、当時の新聞記事などを紹介しながら、「青い目の人形」の交流とその歴史を紹介する。

2. 滋賀県内に残る4体の人形



- 左：大津市立平野小学校のジェーン・ハイランド
中央：彦根市立稲枝北小学校のマリオン・L・スナイダー
右上：甲賀市立甲南第二小学校のメリー
右下：日野町立日野小学校のマリオン・ベイビー



◆ 大津市立平野小学校（人形の名前：ジェーン・ハイランド）

昭和 47 年（1972）11 月に、職員室の壁の中から再発見されました。この教室は、戦前に元裁縫室の床の間にベニヤ板を打ちつけて普通教室に改造し、さらに職員室として使用していたもので、手狭になりベニヤ板をはがしたところ、その中から出てきたということです。昭和 48 年 3 月 25 日付の新聞で、46 年ぶりに見つかったと報道されています。また、人形のパスポートや当時の書類もいくつかが残っていました。

ジェーンは、現在、より多くの方にご覧いただけるよう本館に寄託され、普段は常設展示室で展示しています。しかし、毎年一度、必ず平野小学校へ里帰りをし、子どもたちや地域の方たちと触れ合う機会がつくられています。

◆ 甲賀市立甲南第二小学校（人形の名前：メリー）

昭和 48 年（1973）に、校長室で再発見されました。ある卒業生（昭和 2 年当時は小学校 1 年生）が、テレビ番組を見て、人形のことを思い出したのがきっかけでした。発見時の学校通信によると、校長室の押入れの高い隅の方にガラス箱に入れて置かれていたそうです。その卒業生の方によると、人形の名前はメリーで、昭和 2 年当時、講堂で歓迎式をしたということです。

メリーが当初着ていた衣装の一式も学校で保管されていますが、再発見後、地域の人々が、ボランティア活動で多くの衣装を作り、着せ替えをしています。また、メリーは 94 年前の人形のため傷みが多く、子どもたちが気軽にふれることが難しくなってきたことから、2009 年にはレプリカも作られています。

◆ 日野町立日野小学校（人形の名前：マリオン・ベイビー）

昭和 63 年（1988）に、学校内で再発見されました。理科室にそっと置かれていたそうです。昭和 2 年当時の人形歓迎式の写真も残っており、ひな飾りの壇の前で人形を抱いた女の子が写っています。当初着ていた衣装は現存せず、発見時は薄い肌着のような服だけを着ていました。現在のピンク色の服と帽子や靴は、マリオンの衣装を再現するため、2007 年に日野町の人形作家・榎千津子さんが制作したものです。

◆ 彦根市立稲枝北小学校（人形の名前：マリオン・L・スナイダー）

学校の資料室に保管されていました。昭和 40 年（1965）頃には当時の教員が存在を確認していたようですが、平成 15 年（2003）に改めて「青い目の人形」として再発見されました。人形をおさめた木箱や、パスポート、ギュリックからの手紙、日本国際児童親善会が作った冊子なども見つかりました。学校沿革史には、4 月 12 日に「北米合衆国世界児童親善会寄贈ノ米国人形受領ノ為メ」として学校長が県庁を訪れ、4 月 19 日には学校での歓迎会が開催されていることがわかります。

大津市歴史博物館第 166 回ミニ企画展「青い目の人形と子どもたち」解説シートから
会期：令和 3 年（2021）7 月 27 日（火曜）～9 月 5 日（日曜）

3. 友情人形交流がおこなわれた時代背景

- 明治元年(1868)の日本からハワイへの移民をはじめとし、労働従事者として、日本からアメリカやカナダへの移民が、特に明治20年代以降に増加。当時、不況により失業者が増えていたアメリカ国内では、経済不況と移民増加への不安から移民排斥運動が活発化していく。
- 一方、明治21年(1888)には、アメリカの宣教師シドニー・L・ギュリックが来日。一時帰国をはさみ1913年まで滞在。宣教師として活動し、同志社大学神学部などで教職にもつく。1912年には渋沢栄一と出会い、後に日米親善のため協力するようになる。
- 大正6年(1917)にアメリカでの移民法改正により、日本を除くアジア地域からの移民が禁止され、大正13年(1920)の改正では実質的に日本人も除外された(いわゆる排日移民法)。
- アメリカ国内で、移民に対する排斥運動が活発になる一方で、日本国内でもこの排日移民法に大きく反発があり、抗議活動がおこなわれるなど、両国民同士の関係性が悪化。

4. 人形計画 (Doll Project)

- 大正15年(1926)、アメリカでは、ギュリックを中心に世界児童親善会(The Committee on World Friendship Among Children)が設立された。日米関係悪化を改善するために、民間レベルでお互いの文化を理解し、交流を深めることが重要であるとして、次世代の子どもたちによる交流が計画された。日本側の調整には渋沢栄一も尽力。
- この人形計画では、人形やそれに添える手紙などをアメリカの子どもたちが準備する過程も重要とされ、子どもやその家族、学校団体、教員、地域の人々を巻き込んで、送付先である日本への文化的な理解が深まるように工夫されていた。

〔史料〕「可愛いお人形が親善のお使」日本国際児童親善会(1927年)彦根市立稲枝北小学校蔵

アメリカで人形計画を推進するにあたって世界児童親善会が作成・配布したものを、日本語に訳し日本で配った冊子。人形交流の活動の内容がまとめられている。



人形は、主にアメリカの公私立学校の生徒団体から送ることを想定し、女の子、男の子それぞれに、人形の準備に携わってほしいとする。また、その教師や母親には、贈り先となる日本のことを調べ、子どもたちが知識を広げる手助けをするように求めている。

その他、人形に親善の手紙を添えること、送付する前に各町や村の児童に人形を見る機会を設けること、地方ごとに大々的に送別会を開いて送り出すことなども推奨された。

〔史料〕「人形を受取られる方へ シドニー・ギュリック」(1927年)彦根市立稲枝北小学校蔵

人形に添えられたギュリックからの手紙(印刷で、本文日本語、ギュリックの居所と名前は英語で書かれる)。「御嬢さん」という書き出しから始まり、「友情の人形」を贈ること、返礼の心配は不要であること、その代わりにアメリカの子どもたちへの手紙を書いてほしいことなどが記されている。

5. 友情人形（青い目の人形）の歓迎のようす

- 1926年12月には人形を乗せた第1便が日本へ向けて出発。以降、複数の船便で人形が送られ、1927年1月（この間に日本は大正から昭和へ元号が変わる）以降に日本へ続々と到着した。
- 2月19日に、日本での受け入れのために「日本国際児童親善会」が設立（会長 渋沢栄一）され、3月3日には、東京日本青年館で友情人形歓迎会が催された。
- 日本へ到着した人形は、文部省によって各道府県へ配付され、各地で歓迎会をおこなった後に各小学校や幼稚園へ分配された。新聞では連日のように記事になっているようすがわかり、社会的な関心の高さがうかがえる。

◆「大阪朝日新聞（京都滋賀版）」、「京都日出新聞」、「大阪毎日新聞（大阪市内版）」（1927年）にみる人形到着から歓迎のようすを報じた主な記事（主に滋賀に関するもの）

東京や横浜での歓迎会のほか、京都・滋賀への人形到着から各校での歓迎会までが報じられた。

元号	年	月	日	曜	新聞名	記事見出し〔記事内で取り上げられている地域〕
昭和	2	1	18	火	京都日出	日米両国の児童たちお人形で堅い握手 秩父宮様と御一緒に上陸 女生徒に連れられ東京へ〔横浜、東京〕
昭和	2	2	3	水	京都日出	アメリカ生れのお人形一万五千人 雛の節句までにはみんな日本で落合ふ〔横浜、東京〕
昭和	2	3	2	水	大阪毎日	青い眼のお人形が雛壇のお仲間入り 三日に開かれる米国人形歓迎会 各姫宮も御出席〔東京〕
昭和	2	3	2	水	京都日出	湖国へ訪れた青いお目の人形の涙 何処でも盛んに歓迎されたのに箱詰のまゝ保安課で保護〔滋賀〕
昭和	2	3	3	木	大阪朝日	お人形さんが大津へも到着〔滋賀〕
昭和	2	3	4	金	大阪朝日	可愛がってください…きっと可愛がります…アメリカ人形歓迎会〔京都〕
昭和	2	3	4	金	大阪毎日	青い目と黒い目が感激に輝く けふ桃の節句にお人形歓迎会〔大阪〕
昭和	2	3	5	土	大阪朝日	お人形さん歓迎会 九日に公会堂で〔滋賀〕
昭和	2	3	6	日	大阪朝日	お人形さんは はるばる海を渡つて湖国に着きました 九日の歓迎会の次第〔滋賀〕
昭和	2	3	8	火	大阪朝日	お人形さんの分配学校が決定致しました〔滋賀〕
昭和	2	3	10	木	大阪朝日	溢るゝ喜悅 人波を打つ賑さ きのふの人形歓迎会〔滋賀〕
昭和	2	3	11	金	大阪朝日	お人形歓迎会 廿四五日頃 彦根両小学校で〔滋賀〕
昭和	2	3	14	月	大阪朝日	人形歓迎会 二十四日彦根で〔滋賀〕
昭和	2	3	19	土	大阪朝日	人形歓迎会 きのふの大津幼稚園〔滋賀〕
昭和	2	3	25	金	大阪朝日	彦根町の人形歓迎会〔滋賀〕
昭和	2	4	6	水	大阪朝日	お人形が更に廿六個〔滋賀〕
昭和	2	6	22	水	大阪朝日	人形がまた来る 一第三回目の追加―〔滋賀〕

〔史料〕昭和2年3月5日付「米國児童寄贈人形歓迎會並頒布式ノ件通牒」 大津市立平野小学校蔵
滋賀県内の人形配付校に対して、人形歓迎会（3月9日に県公会堂で開催）の内容と注意事項を記した滋賀県学務部長からの通知文。各校でも人形歓迎会を開催し、その写真を撮ること、代表児童に感謝状を書かせ寄贈者へ贈ることなどの指示が記されている。

6. 滋賀県内で友情人形が配付された小学校・幼稚園

人形を輸送した船舶ごとに道府県への割当を記した「各県別・各船舶別人形配付割当表」(1927年、渋沢史料館所蔵)によると、12の船便に分けて11,973体が到着。滋賀県にはリンコルン丸積載の811体のうち106体、プレシデント・ピヤス丸積載の2,254体のうち29体が割り当てられた。

◆大阪朝日新聞京都滋賀版(1927年3月5日、3月8日、4月6日、6月22日)でみる配付校

滋賀県内で人形が配付された学校・幼稚園名は、上記日付の新聞記事から知ることができる。記事に記載された学校・幼稚園名をまとめると、以下のようになる。

(1) 第1回目(1927年3月) 106体

※大阪朝日新聞京都滋賀版 1927年3月5日及び8日付記事を元に作成。旧漢字体は改めた。

※()は注釈、[]は現在の校名で、人形が現存する学校名には下線を引いた。

大津市	県師範学校附属[滋賀大附属小]、 <u>大津東</u> [平野小]、大津西[長等小]、大津[中央小]、大津南[逢坂小]、大津藤尾[藤尾小]、大津幼稚園 ※3月5日記事に「分配は男女附属小学校と大津市内の幼稚園、小学校が各一個づつ」とある。
滋賀郡	石山、膳所、膳所幼稚園、堅田、伊香立、木戸
栗太郡	志津、葉山、治田、物部、笠縫、草津、草津幼稚園、瀬田
野洲郡	守山、速野、中洲、中里、兵道(兵主か)、野洲
甲賀郡	三雲、水口、大野、佐山、犬山(土山か)、山内、大原、油日、北杣、 <u>南杣</u> [甲南第二小]、長野
蒲生郡	八幡、八幡幼稚園、岡山、島、安土、武佐、平田、中野、朝日野、必佐、 <u>日野</u> 、玉緒
愛知郡	東小椋、角井、押立、西押立、秦川、愛知川、葉枝先(葉枝見か)
神崎郡	山上、御園、八日市、山本、南五ヶ荘、八幡
犬上郡	彦根、彦根西、高宮、河瀬、亀山、豊郷、西甲良、東甲良、川相、多賀
坂田郡	桐原、上野、東黒田、息郷、鳥居本、米原、米原幼稚園、北郷里、神照、長浜、長浜幼稚園
東浅井郡	上草野、湯田、虎姫、朝日、大郷
伊香郡	富永、木ノ本、余呉、片岡、塩津、永原
高島郡	海津、百瀬、今津、朽木、安曇、大溝、水尾、饗庭

(2) 第2回目(1927年4月) 29体か

※大阪朝日新聞京都滋賀版 1927年4月6日付記事を元に作成。ただし、人形の数、記事見出しでは26個、本文中では29個とされ、配付先学校名は31校分が記載されている(野洲は1回目と重複)。

仰木、和邇、上田上、常盤、伴谷、龍池、貴生川、千原、野洲(※1回目配付先と重複か)、玉津、宇津呂、苗、鎌掛、東桜谷、五峰、愛国(豊国か)、稲[稲枝北小]、磯田、青波、佐目、久徳、神田、日撫、六蔵、東草野、田根、金居原、古保利、高島、広瀬北、新儀

(3) 第3回目(1927年6月) 6体

※大阪朝日新聞京都滋賀版1927年6月22日付記事から。ただし、この時は配付先の記載は無い。

また、この6体については、「各県別・各船舶別人形配付割当表」には記載がない。

7. 現大津市域内の1927年当時の人形配付校と関連資料一覧

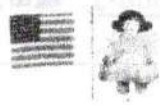
	学校名(当時名称)	人形名	歓迎会の写真	昭和2年当時のようすが確認できる資料・記録類
1	平野小学校(大津東)	ジェーン・ハイランド		人形、パスポート、県通牒、学校沿革誌
2	長等小学校(大津西)	クリスヒラマリー・ドーソン(プリースヒニマリー・ドーソン)	○	写真、歓迎会の新聞記事
3	中央小学校(大津)	不明		学校沿革誌
4	逢坂小学校(大津南)	不明	○	写真
5	藤尾小学校(大津藤尾)	不明		
6	滋賀大学教育学部附属小学校(滋賀県師範学校・滋賀県女子師範学校)	不明		学校沿革誌
7	大津幼稚園	不明	○	写真、沿革誌、新聞記事 ※3/18 歓迎会
8	石山小学校	不明		学校沿革誌
9	膳所小学校	不明		学校沿革誌
10	膳所幼稚園	不明		
11	堅田小学校	メーリー・リンカーン	○	写真、学校沿革誌
12	伊香立小学校	不明		学校沿革誌
13	木戸小学校	不明	○	
14	瀬田小学校	不明		
15	仰木小学校	不明		
16	和邇小学校	不明		学校沿革誌
17	上田上小学校	不明		校中日誌

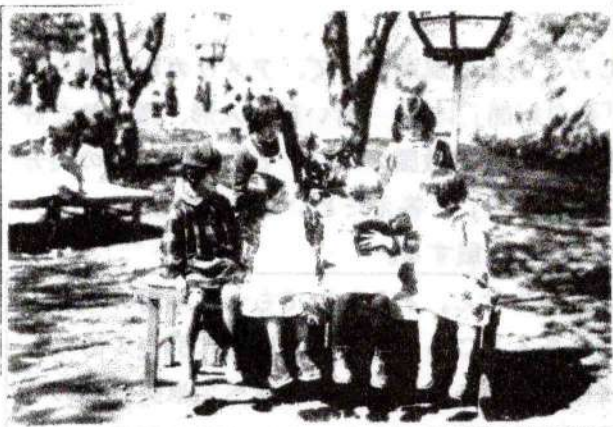
To Boys and Girls in Japan

EXHIBIT NO. 100-101-102

人形のパスポート(大津市立平野小学校蔵)

贈られた人形1体ずつに、名前、髪や目の色などを記載したパスポートが添えられていた。左の写真は、平野小学校のジェーン・ハイランドのもの。

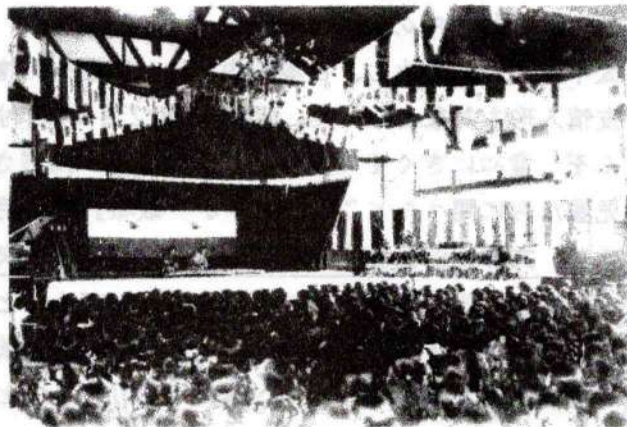




写真：人形を囲む子どもたち

(大津市立長等小学校蔵)

前列右から2番目の子が人形を抱えている。



写真：人形歓迎会(大津市立堅田小学校蔵)

右側のひな壇上には、友情人形とともに、各家庭から持ち寄った日本人形なども置かれていた。

8. 日本からアメリカへの答礼人形

ギューリックは返礼不要と強調したが、日本側は答礼人形を用意した。人形配付校の子どもたちから1銭ずつを募って日本人形の制作費にあて、クリスマスに合わせて贈ることとした。完成した58体の人形は、「ミス滋賀」などの地名を冠して、各地に回送して送別会を開いた後に、アメリカへ出発した。アメリカ各地でも歓迎会が催されて、受け入れられたという。答礼人形は、アメリカの博物館や図書館などの公共施設に収蔵され、58体のうち8割ほどの現存が確認されている。

◆「大阪朝日新聞」京都滋賀版(京都版、滋賀版)1927年にみる答礼人形関連記事

※9月までは大阪朝日新聞京都滋賀版から。10月以降は京都版と滋賀版に分かれ滋賀版のみ抜粋した。

元号	年	月	日	曜	新聞名	記事見出し〔記事内で取り上げられている地域〕
昭和	2	8	4	木	大阪朝日	友禅振袖の京人形アメリカ返礼としてゆく 伏見でつくる〔京都〕
昭和	2	8	30	火	大阪朝日	アメリカへ返礼のお人形 京の丸屋で出来上った〔京都〕
昭和	2	9	28	水	大阪朝日	あたしたちのお人形さん はるばるアメリカへ 手紙を持ってお礼に〔滋賀〕
昭和	2	9	29	木	大阪朝日	あめりかへお礼に 県の御人形さん〔滋賀〕
昭和	2	10	3	月	大阪朝日	アメリカへお礼に行くお人形送別会〔滋賀〕
昭和	2	10	9	日	大阪朝日	お人形の送別会 きのふ彦根で〔滋賀〕
昭和	2	10	16	日	大阪朝日	滋賀子さんの送別会 『御無事を祈ります』〔滋賀〕



答礼人形「ミス滋賀県」絵はがき

(大津市歴史博物館蔵)

9. 太平洋戦争中の人形の処遇

太平洋戦争が激化し、日本国内では、敵国への憎しみをあおる風潮の中で、アメリカから贈られた友情人形も対象となった。昭和18年2月19日付「毎日新聞」には、「青い目の人形、憎い敵だ許さんぞ 童心にきくその処分」という記事が掲載された。人形を敵国のスパイとみなしてその処分を児童たちに問うたところ、大半が「破壊」や「焼いてしまえ」と答えたという内容である。

また、文部省国民教育局総務課長の談話として次のように記載する。

「全国各国民学校に青い眼の人形が贈られてゐるとは思ひません。あるとしても十五年前の人形を麗々しく飾つてあるとは思へない。しかしもし飾つてあるところがあるならば速に引っこめて、こはすなり、焼くなり、海へ棄てるなりすることには賛成である。常識から考へて米英打倒のこの戦争が始つたと同時にそんなものは引っこめてしまふのが当然だらう。この人形の処置について児童に回答を求めるなどといふことは面白いこゝろみである」

この記事が掲載された頃から、各地の小学校では人形が破壊・廃棄されたという。一方で、それを不憫に思った教員や個人がひっそりと隠すなどして人形を守ったという例もある。滋賀県下や大津市内で明確に人形処分の通達があったのかは、史料では確認できない。

88 220 ~ 280 枚

10. 「再発見」された人形たち

昭和48年(1973)、NHK番組「人形使節メリー」が放送されたことをきっかけに、全国で人形の存在が思い起こされ、再発見が相次いだ。現在までに全国で320体以上が確認されており、滋賀県では4体が現存する。

11. おわりに

大津市内の学校沿革史などの学校資料からは、当時の子どもたちと時代背景について読み解くことができる。また、全国に現存する友情人形は、博物館で保管される他、学校で今も保管されている例も多く、学校の歴史とともに戦争と平和を語る教育資料としても扱われている。また、近年では、ギュリックの孫であるギュリック3世夫妻が、この親善事業を個人的に引き継ぎ、「青い目の人形」が残る日本全国の学校へ新たな人形を贈るという活動をおこない、交流が続いている。

〈主な参考文献〉刊行年順

- ・武田英子 1985年『写真資料集 青い目の人形 日米友情の人形交流の記録』山口書店
- ・高岡美知子 2004年『人形大使 もうひとつの日米現代史』日経BP社
- ・彦根市史編集委員会 2005年『新修彦根市史 第9巻 史料編 近代2・現代』
- ・長崎歴史文化博物館 2007年『もうひとつの日米交流史 青い目の人形と長崎瓊子展』
- ・岸本実、中嶋政二 2010年『地域教材に関する共同研究報告「青い目の人形」実践プロジェクト』
- ・是澤博昭 2010年『青い目の人形と近代日本 渋沢栄一とL・ギュリックの夢の行方』世織書房
- ・田中仁 2012年『ボクらの村にも戦争があった 学校日誌でみる昭和の戦争時代』文理閣
- ・大津市歴史博物館 2014年『第64回企画展 戦争と大津 激動の時代と子どもたち』
- ・日野町史編さん委員会 2014年『近江日野の歴史 第4巻 近現代編』
- ・甲賀市史編さん委員会 2015年『甲賀市史 第4巻 明日の甲賀への歩み』
- ・埼玉県立歴史と民俗の博物館 2021年『NHK大河ドラマ特別展 青天を衝け～渋沢栄一のまなざし～』
- ・ベレジコワ・タチアナ 2021年『海を渡った人形使節 ―国際交流から見た近代史―』大阪大学出版会